

令和5年度

事業計画実績報告書

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月 31日

社会福祉法人 横手福寿会

〒019-0703 秋田県横手市増田町吉野字梨木塚100-1

< 目 次 >

1. 理事会・評議員会 開催状況	1
2. 介護老人保健施設 りんごの里 福寿園	
・各部門総括	2～7
・各種委員会総括	8～10
・研修・出張の実施状況	11
・職員学習会の実施状況	12
・年間行事計画の実施状況	13
・慰問・ボランティア・実習等の状況	14
・防災計画の状況	15
3. グループホーム ひだまりの家	
・総括	16
・各種委員会総括	17～18
・年間行事計画の実施状況	19
・慰問・ボランティア・実習等の状況	20
・防災計画の状況	21
4. グループホーム ひなたの家	
・総括	22
・各種委員会総括	23～24
・年間行事計画の実施状況	25～26
・慰問・ボランティア・実習等の状況	27
・防災計画の状況	28
5. ショートステイ ラ・ボア・ラクテ	
・総括	29～30
・各種委員会総括	31～35
・研修・出張の実施状況	36
・職員学習会の実施状況	37
・年間行事計画の実施状況	38～39
・慰問・ボランティア・実習等の状況	40
・防災計画の状況	41
6. 居宅介護支援センター、訪問介護センター 訪問リハビリセンター 総括	42～43
7. りんごの里くらしのサポートセンター総括	44
8. 事業別利用者状況表	45
9. 事業実績報告の付属明細書	46

令和5年度 理事会・評議員会開催状況

(令和5年4月1日～令和6年3月31日迄)

令和 5年	
5. 18	監事監査
5. 24	理事会
6. 7	理事会 / 評議員会
11. 15	理事会
令和 6年	
3. 12	理事会
3. 27	評議員会

介護老人保健施設 りんごの里 福寿園

< 各部門 総括 >

「看護部門」

1. 利用者様の情報から予測される身体リスクを念頭に健康状態の確認ができることを目指し、分かりやすく、伝えやすい申し送りシートや業務の見直しを継続的に行っています。今後も種々の見直しが必要であるため取り組んでいきます。
また、緊急時についてもマニュアルを確認し、近隣医療機関との連携に努めていきます。
2. 感染症に関する知識や対応を確認し対応してきたが、今後もより迅速な対応ができるように努めていきます。新型コロナについては、令和5年7月・3月に職員と利用者数名罹患しました。
3. 入所利用者様の状況からカテーテル管理や医療的処置を継続的に実施することが多くなり、処置物品の消耗は多くなっています。
今後も使用状況を確認し、無駄なく安全に使用していくように検討していきます。

「介護部門」

1. 利用者様の尊厳を守り、生活機能の維持・向上
 - ①利用者様からの意見や訴えについて真摯に受け止め、対応の改善などに努めた。
 - ②【3階】在宅復帰者を主として、職員が不足する中でも継続的なりハビリを提供する事が出来た。
一時帰宅による在宅リハビリの推進については、感染予防のため実施出来なかった。今後の課題と考える。
ご本人のモチベーション維持やご家族の期待がある中で、具体的な機能向上について評価・提示できる様にリハビリ課との連携を密に実施していきたい。自立支援・在宅復帰に特化したフロアとしての役割を継続目標としていく。
【2階】タクティールケア（不安な感情を取り除いたり、痛みを和らげたりする）、いきいきプログラム、体験工房については職員の欠員により提供できていない。日常のグループワークについては継続出来ている。今後は実施内容を見直し、少しでも日常に楽しみやハリを持った生活を送る事が出来る様にしていきたい。月1回のケーキバイキング・茶話会を開催している。四季のものを取り入れ、食の部分でも楽しみを提供していく。
 - ③トラブル発生状況については昨年と同じくらい発生している。今後は予防の観点での対応に努め、不注意や受傷を伴う事故が無いように環境作りを行っていく。
2. 介護サービス向上、人材育成への取り組み強化
 - ①個人面談を実施している。自身の仕事について見直すとともに、今後の課題へ向けた取り組みを考え実行できるようにした。また、要望等について聞き取りを行う事で働きやすい環境作りに繋げていけるよう今後も継続する。
 - ②新人オリエンテーションについては計画を見直し、また、オリエンテーション職員への指導も含め実施する事で、新人職員の職場定着を目指した。
 - ③職員の欠員により外部研修への参加が出来なかった。今後はオンライン研修など参加しやすい環境である事から、積極的に参加していきたい。
 - ④課内学習会を定期的に行う事ができ、職員の知識向上に努める事が出来た。

3. 高齢者虐待防止、身体拘束廃止、感染予防の周知徹底

- ①各委員会での学習会等をもとに周知を図った。虐待の発生はなく、また身体拘束についても必要性の確認や解除に向けての取り組みは継続出来ている。
- ②感染対策については、新型コロナウイルスへの適切な対応を継続していく。7月と3月に施設にて新型コロナウイルスの罹患者があった。日頃から1人1人のスタッフが感染防止対策を実施するとともに、感染予防を組織的に実践する体制を整えていく。

「リハビリ部門」

【入所・短期入所療養介護サービス】

- ①参加者間の間隔を広めにとり、マスクを着用する等の感染予防策を講じて集団リハビリテーション(以下、リハ)を継続して行っている。感染予防策や運営スタッフが1名であることで活動内容が限られているが、利用者様に興味を持って参加していただけるよう工夫に努めている。
- ②看護・介護課と連携し、日常生活動作の自立度アップや重症化予防に努めた。特に退所先(自宅等)で必要となる能力を維持するための支援に重点を置いて実施した。
- ③強化型老健の要件に合わせ、週3回の個別リハを実施している。在宅復帰目的の新規入所者には短期集中リハ加算を算定し、週4～5回の個別リハを提供している。(今年度の算定者25名(昨年度30名)、リハ件数803件(昨年度1169件)、短期入所の個別リハ提供は1209件(昨年度1133件))であった。
- ④課内カンファレンスを定期的実施、各職種で意見交換をして方針やプログラムを見直している。

【通所】

- ①人員の減少により、外出してのサービス担当者会議出席や事前訪問への同行はほとんど行えなかった。相談員と連携してニーズや家屋環境等の情報収集を行うように努めた。
- ②施設内での自己トレーニングを個別に指導し、空いた時間を活用して行って頂いており、積極的に行う利用者様は施設内の行動範囲の拡大が見られている。自主的に行うことが難しい利用者様への働きかけは今後も継続する必要がある。
- ③短期集中個別リハ加算算定者は0名であった。今後も通所相談員、ケアマネージャーに働きかけていく。

【職場環境の整備】

- ①全体の業務量を把握し、通所と入所の仕事量のバランスがとれるようにコミュニケーションに努めた。今年度中の担当ローテーションはできなかった。
- ②体調不良による長期休業はなかった。不調のサインを見逃さないように今後も気を配っていく。
- ③リハ機器の消毒、通所と入所でマシン利用時間を分ける等の感染対策は継続している。感染症発生時は当該フロア以外のリハは休止せずできている。感染症発生フロアにリハスタッフが業務補助として入ることで、運動機能の維持や余暇時間に目を向けたケアができていると思われる。
- ④6/26～8/5に秋田大学作業療法専攻の学生1名の臨床実習を受け入れた。臨床的思考を言語化する作業を通し、自らの療法士としての知識を問い、姿勢を見つめ直すよい機会となった。

「介護計画部門」

1. 在宅復帰支援

在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価（10項目の指標）では地域特色などを勘案し、昨年度、超強化型から在宅強化型算定へ切り替えており、安定して加算算定ができています。介護老人保健施設の機能が地域に認知され、特に医療機関の入退院支援担当や医療相談員、居宅介護支援事業所からの紹介が殆どだったが、在宅復帰者は昨年より9名少ない35名だった。原因としては、在宅復帰希望で期間入所したが、思うようなADL改善が見られず長期施設へ移る方々が多くなった事が挙げられる。対応策としては退所後の生活ビジョンの提案やフォローを手厚くして、居宅支援担当者やご家族の理解を得ながら進める事で在宅復帰者を増やしていきたい。今後も在宅生活及び地域生活への移行を目指す利用者様を積極的に受け入れ、入退所前訪問、ご家族及び居宅介護支援事業所者との密な情報共有、効果的なりハビリテーション提供を軸に30～40%台の在宅復帰率、5～10%のベッド回転率を確保していく。

2. 安定した利用稼働率の維持

[入所] 年間を通して平算86名を維持しなければならなかったが、84.5名と達成できなかった。特に昨年10～12月の稼働率低下が大きく影響しており、要因として、突発的な入院退所による空床を速やかに埋められなかった事、入退所訪問と併用して待機者の事前面談や入所調整に時間を要した事が挙げられる。老健機能にマッチした利用者獲得はこれまで通りに実施し、安定した利用稼働を維持すべく、申込み受付時からの仕分けや速やかに空床調整ができるように入所希望者の直近の状況確認と早期の事前面談を実施していく。

[短期入所] 入所ベッド回転率調整の関係で冬季と夏季の稼働率を変動させている。定期利用する方や在宅復帰後の機能訓練目的で短期入所を利用する方用に短期入所ベッド数を昨年度と同様に稼働している。特に11月頃より短期入所予定者の突発的な体調不良や利用途中での退所、同居家族のコロナ感染等予定変更が数多くなり、平算が9.5人となってしまった。在宅強化型を算定しながら稼働率を維持していく為には、短期入所の稼働率が重要になってくる。キャンセル時の早期調整ができるように関係各所に情報提供する事、緊急の利用時はご家族送迎の協力依頼を行い、柔軟かつ誠実に対応できるように努めていく。

3. 他職種、各課との連携

事前面談時、必要な情報を各課と確認したり、定期カンファレンスや入退所前訪問で随時情報共有や検討事項を解決できている。

4. 職員のスキルアップを図る

ZOOMを用いた研修への参加、地域ケア会議への出席を通じて学習機会と他事業所との意見交換する機会を持つ事ができた。

5. ケアマネジメント業務

利用者様、ご家族との面接を丁寧に実施し、的確に課題を据えて介護支援計画に反映させた。高齢者特有の急激な状態変化があった場合も、随時カンファレンス開催や他職種間の連携を今後も継続していく。

6. 相談及び援助

施設入所や当施設で提供するサービス利用に留まらず、利用者様やご家族のニーズに合わせた総合相談（成年後見制度利用、障害サービス利用、他施設への紹介など）に対応できている。

「通所リハビリテーション部門」

1. 利用者様の自立を目指し、生きがいのある生き生きとした生活を送るために支援する。
やる気ポイント制度について、利用者様へ分かりやすく掲示する事で内容を周知し、活動内容についても再検討し、職員間で共通認識のもと利用者様へ支援するようにした。利用者様がさらに主体的に活動できる環境を目指し、今後も自主的な活動として活発に行っていく。
リハビリについてPT、OTによる個別・集団リハビリを強化している介護職員も生活の中で、リハビリに対する視点をさらに高めながら、今後もリハビリ課職員と連携し情報を共有し機能維持に努めていきたい。
2. 利用者様やご家族の満足と達成感を得られる質の高いサービスを提供する。
普段の業務とすり合わせた内容を取り上げた課内学習会を定期的に行うことで、知識向上に努め再確認する事ができた。
また、定期的な利用以外にもご家族の都合によるスポット利用に関して、都度実施することが家族のレスパイト目的の利用に対してもしっかりと役割を果たせるように努めていきたい。
3. 安全・安心に利用していただける環境作りに努め、細心の配慮を心掛け、サービス提供時の事故・トラブル減少に努める。
法令の順守及び安全を第一とした運転業務の遂行を強く指導し、事故がないように運転手、添乗員が責任を持って送迎にあたった。特に冬期間は視界が悪く道幅も狭い為、時間に余裕を持ち行動する事を心掛けた。
利用中の転倒及び事故は9件、昨年度より7件減少し、受診に至るケースはありません。同じようなトラブルや再発防止策がしっかりと出来ていない事によって起きた事例もある為、職員個々の危険予知能力を高めヒヤリハットや、インシデントを周知して、適切な業務遂行し事故ゼロを目指す。
感染症においては、2月新型コロナウイルスのクラスター発生。今後も継続して迎え時の体温測定、利用者様とご家族の体調確認、感染症対策を徹底し持ち込み防止に努めていく。

「口腔衛生部門」

1. 通所
口腔機能向上サービス利用者は、12～13名で推移している。
新規利用者様の口腔アセスメントを実施し、口腔内の状態把握と職員ケアマネージャー、ご家族への情報提供を行うことができた。必要時は口腔機能向上サービス提供について提案し、それにより今年度は2名加算対象者が増加している。
全利用者様の口腔に対する相談にも対応できている。
職員への助言・指導を随時行えている。
2. 入所
口腔衛生管理加算は全入所者様へ対応することができた。
また、技術的助言及び指導と学習会を通して、職員への指導も行えている。
3. グループホーム
口腔衛生管理体制加算において月1回の訪問が出来ており、入居者様の口腔衛生に努めている。また、職員へも随時指導を行っている。

4. ラ・ボア・ラクテ

感染対策により訪問できない月もあったが基本的に月2回の訪問を継続できており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。

訪問時は随時職員への助言を行い、口腔ケアの意識向上や技術向上にもつなげている。

5. 関係医療機関との連携を図る

歯科治療の希望者には協力歯科医院の赤沢先生の往診治療を受け入れる体制にある。ご家族との連絡や歯科医院への依頼を行い、往診時の準備・対応を行っている。

また、利用者様やご家族の希望で、すえひろ歯科医院の対応も行っている。

6. その他

研修会等への参加は開催の情報不足により行えなかった為、来年度は積極的に情報収集し参加したいと考える。

来年度に向けて、新人の育成をスムーズに行い1.5人体制から2.0人体制に戻ることにより今まで通り、又は今まで以上の対応が出来る様努めていきたい。

オンラインセミナーや研修等に参加し自分たちのスキルアップを図り、介護職員への助言・指導へつなげていきたいと考えている。また、利用者様やご家族様の直接の相談にも変わらず対応できるように努めていきたい。

「事務部門」

1. 職場の環境作り

①各課の垣根を越え、多くの職員とのコミュニケーションを取り、各課にまたがる問題等を横断的に解決するよう心掛けた。

②仕事に対する充足感を得られるように、用がある時は事務課から出向き、現場第一で業務を遂行した。

2. 事務業務の共有化と標準化

①業務上必要に応じての協力体制の構築に努めた。担当がいなければ全く分からないといった事が無いようにした。

②請求業務等や利用者様の預り金など、現金や数字を扱う業務が多いが、大きなミスは無く出来た。

③物品を購入する際も、値段の比較などをした上で購入した。消耗品の節約も含め継続していく。

3. 地域貢献に向けた取り組み

①高齢者くらしのサポートセンターで、町内に住む独居高齢者への安否確認を実施している。

②地域活動の「つどいの和 りんりん」を1年間実施。(増田町老人憩の家にて毎週木曜開催)

「施設管理部門」

1. 施設経費の状況を把握する
 - ①水道、各種電気、燃料の使用量及び金額の前年対比とその分析を継続する。
特に電気代は上昇傾向がある為、節電を継続する。
2. 車両関係
 - ①人身に関わる事故・車両事故等はなかった。
 - ②数台の施設送迎車両が更新時期を控えているが、長期的な運用を考え車両の更新については前々から計画し、送迎等の業務に支障がないように実施した。
3. 設備の保守
 - ①特殊技術や特殊工具使用等の設備、機器を除き、自前で修理出来るものについては実施し、経費削減に繋がった。また、非常灯のバッテリー交換や溶接、特殊浴槽修理、車両リフトの不具合等、修繕に努めた。
4. 環境整備関係
 - ①新型コロナウイルス感染予防の為、今年度においては全館の窓ガラス清掃を実施したが、館内フロアのワックス掛けは実施できなかった。
 - ②芝生と植栽樹の維持管理を継続する。
前年同様に除草剤使用による雑草の抑制、芝生の刈り取り、石拾い等の管理をした。
 - ③除雪について常に早めの作業に努め、安全かつ効率的な除雪を実施。除排雪中のけがや事故はなく、物損も発生しなかった。
5. その他
 - ①インフラ整備面では、経年劣化により数か所で配管の漏水等による工事が必要となったが、日中出来ない水道や配管工事は夜間に行い、騒音が発生する作業は事前に周知した上で出来る限り利用者様の迷惑にならないように実施した。

< 各種委員会 総括 >

「行事委員会」

活動内容

- 6月：レクリエーションゲーム 9月：打上げ花火、敬老会 12月：餅つき 2月：節分（豆まき）
- ・近隣の新型コロナウイルスの流行状況に配慮し、出来る活動を実施した。前年度に続き施設内での活動に限られたが、縮小や形を変えながらも季節行事などを企画し、実行することができた。コロナ禍の施設生活において、一つでも多く行事を開催出来るよう、感染対策に配慮した室内の行事を模索した一年となった。今年度開催できた企画をもとに来年度も積極的に活動していきたい。
 - ・外出行事を3年間実施出来ていない。感染症に十分注意し外出行事を行っていき、社会との関わりや、利用者様の気分転換を図っていく。

「給食改善検討委員会」

- ①食事の形状やかたさ、食べやすさ等を考慮し個人への対応を細かく行う事ができた。
- ②嗜好調査から実態を知り、また要望に対応できるように努めた。
- ③各専門職が利用者様の日頃の声に耳を傾け、改善へ向けて活動することができた。

「家庭介護者教室運営委員会」

1. 今年度も新型コロナウイルスの影響により、ご家族を施設に迎えての教室開催は実施できなかった。利用者様・ご家族へ向けて、在宅介護に役立つ情報を掲載したお便りを2回発行している。また、道の駅への設置や“つどいの和りんりん”での配布を継続し、地域への情報発信を行っている。

内容については下記の通り。

第1回：職員紹介／耳掃除について／義歯の取り扱いについて

第2回：むくみについて／転倒しない環境作り

通常の面会が再開されるまで教室の開催は困難だと考えている。お便りの発信を続けているが、一方通行の発信になっていると感じる。関心を持ってもらえる内容にしていかなければならない。書面でのお便りの他、動画（介護技術等）による情報発信も検討していきたい。

「環境・サービス向上委員会」

1. 環境整備について

①各居室の消臭ビーズ交換を定期的実施した。

②下駄箱清掃を実施したが、全職員が行ったとは言い切れない為、実施していない職員への促しをしていく。

2. サービス向上について

①ご家族アンケート

多くは暖かいお言葉を頂戴したが、改善が必要なご意見については適切に改善していく。

②勉強会

資料を自己評価表と一緒に配布し参考にして頂いた。介護課のみ接遇マナーと勉強会を合同で行った。

「褥瘡対策委員会」

1. 危険因子の評価を積極的に行うことはあまりできていなかったが、各専門職と協力し、現在ある福祉用具をうまく活用することはできた。
2. 褥瘡計画書の作成が、未実施となった期間があった。
3. 褥瘡計画書に基づいたリスクに対する予防ケアの実施は概ね行っていた。来年度は、各職種に具体的な役割を依頼し、褥瘡発生防止に努めていく。

「感染対策委員会」

1. ①定期的な委員会の開催（毎月第2月曜日）
②日常の予防策の実施状況については各階ごとにチェック表を提出することで確認している。
③新型コロナウイルスやその他の感染症発生時に迅速に具体的な予防策が実施できるように物品の管理をしている。
今後においても実際の発生した際の動き等を再検証し、より迅速な感染予防につながるようにしていきたい。
2. 集団での学習会は開催出来ず、資料配布等で行った。
3. 感染症対策については情報を確認し、また施設内で感染症発生時の振り返りを共有し、今後の予防対策につなげていきたい。

「事故発生防止委員会」

1. 実施計画内容については概ね実施出来ている。ヒヤリハットの有効活用や各課との情報共有から個人へのアプローチについて、今後の課題としたい。
「事故発生状況」（前年度比）
転倒 55件 (+14) : 誤嚥 1件 (-3) : 誤薬 2件 (-3) : 皮膚トラブル 15件 (-14)
経管トラブル 0件 (-6) : 異食 0件 (±0) : その他 7件 (+1) 累計 80件 (-11)
※その他：フォーレチューブトラブル、転倒外の骨折、誤飲、禁止食の提供、服薬忘れ（時間ずれ）など
前年度より事故発生件数が-11件と減少している。重大な事故を減少出来るように働きかけ、対応を行っていく。骨折について、令和5年度は3件発生している。職員の不注意によるトラブルを減らす為には常に意識づけをしていかなければならない。慣れにより慢性的なケアにならない様に、今後も委員会等から定期的に働きかけていく。
2. 安全衛生については、各部署の危険箇所の確認や腰痛防止、メンタルヘルスへの取り組みが不足していた。今後は定期的に各部署の職場環境チェックを実施し、検討・改善に努める。
また、学習会等での全体周知も実施する。

「排泄改善委員会」

1. 在宅復帰者の排泄機能維持向上に重点を置き、委員会内で定期的な状態確認を行ってきた。ご家族・本人の意向に合った支援策の伝達はスピーディーに行えたと思う。
2. 毎月の施設洗濯回数表を基に汚染衣類も分析考察を行い、対応策を考え実践してきたが思った様な結果が出なかった。原因として、委員会と各ブロック長との情報伝達や共通認識が出来ておらず、対応策の周知が不十分だったことが考えられる。今後は毎月の介護課会議の中での報告を進めていきたいと思う。
3. 今年度も失禁予防への取り組みとして骨盤底筋トレーニングの定着を進めてきた。
4. 今年度も実践に伴った排泄介助の学習会を開催出来なかったのが、次年度の目標としていく。

「高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会」

1. 前半はなかなか委員会を開催することが出来ず、身体拘束廃止に向けてのカンファレンスを定期的に行うことが出来なかった。シフト調整をするのが遅れてしまったことが原因と思われる。後半は早めに委員メンバーに声をかけ1カ月ごとに実施することが出来たので、次年度も継続していきたい。
2. 高齢者虐待に関してはアンケートを実施し、自分が気を付けている事と、第三者が気になっている事に差がある事を感じてもらえたのではないかなと思う。内出血などが多く発見されることもあったので、定期的に虐待防止への意識を委員会から発信していきたい。
3. 身体拘束に関しては、解放に向けて少しずつ前進出来た方もいた。全ての解放とまではいかなくとも、短時間でも拘束具を外しストレスのない時間を作れたらと思う。その為にも動作の確認や、日々の視察を通して情報を集め、カンファレンスを行っていきたい。

「防災委員会」

1. 定期的な非常用物品の点検及び整理
備蓄庫及び施設内非常用物品の点検を実施した。
2. 消防設備、機器の把握と使用手順の周知徹底
避難訓練時に消火器及び屋内消火栓を使用するの消化訓練、非常放送設備での館内放送、自動火災通報装置での通報連絡及び物干し棒と毛布等を利用しての簡易タンカの作成訓練を実施した。
3. 全職員の避難訓練の参加により、火災発生時の対応を体得する。
年2回の避難訓練を実施し、できる限り訓練経験のない職員を優先して参加させている。
4. 年間防災計画に基づいた各種点検、訓練の実施
法定の消防設備点検を専門業者に依頼し機器点検及び総合点検を実施した。防災避難訓練を消防署指導の下、日中想定、夜間想定で2回実施した。

「経口摂取委員会」

1. 月に2回委員会の開催で、各職種と意見交換を行い入所者ごとのリスクの共有を行い、支援へと繋げていくことができた。
委員会で検討した内容を、速やかに日々のケアに取り入れ個々に合わせた経口支援を行うことができた。

研修・出張の実施状況

参加年月日	研修内容	場所	参加者
令和 5年 5月13日	片麻痺患者者の理解を深める	オンライン	田中 千穂
5月26日	秋田県介護支援専門員協会 令和5年度 第1回研修会	オンライン	加瀬谷 彩
6月16日	令和5年度 県南地区介護支援専門員協会研修会	湯沢市 ニュー千寿苑	加瀬谷 彩 高嶋 美奈子
10月27日	ノーリフティングケアの研修	秋大医学部 保健学科B棟	高橋 克典
11月18日 11月19日	臨床実習指導者講習会	オンライン	佐々木 真澄
11月21日	令和5年度 第1回横手市福祉施設 栄養士協議会 研修会	旭ふれあい館	貴俵 恭子
11月22日	全国介護老人保健施設大会 宮城	仙台市	菊地 浩記 原 充
11月30日	経腸栄養時の胃食道逆流とその対策	オンライン	貴俵 恭子 金村 美由紀
12月 5日	令和5年度 第2回横手市福祉施設 栄養士協議会 研修会	旭ふれあい館	金村 美由紀
令和6年度 2月 1日	令和5年度 大曲仙北地域ケア研修会 県南地区介護支援専門員協会 第3回研修会	グランド バレス川端2F	加瀬谷 彩 佐藤 弥生
3月 7日	働く人のメンタルヘルス	平鹿地域振興局 環境福祉部	鈴木 久美子

職員学習会の実施状況

【全課合同】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 5年 5月 22日	「施設内での感染症発生時の動きと感染対策について」	45名
令和 5年 9月 25日	「プライバシー保護の取り組みについて」 「非常災害時の対応について」、「介護事業者の接遇について」	36名
令和 5年 12月 25日	「認知症ケア」	書面開催
令和 6年 1月 29日	「事故発生時の緊急対応について」	40名

【介護課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 5年 4月 26日	「接遇について」	5名
令和 5年 6月 27日	「口腔ケアの手順」、「介助時の注意」、「トロミ剤の使い方」	5名
令和 5年 11月 2日	「高齢者の皮膚トラブルについて」	書面開催
令和 6年 1月 26日	「認知症について」	書面開催
令和 6年 2月 28日	「骨折の処置と対応」、「骨粗鬆症について」	書面開催

【通所リハビリテーション課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 5年 6月 28日	「危険予知トレーニング」	7名
令和 5年 8月 23日	「トロミ剤の使い方」、「ムセ込みがある方の食事介助のポイント」	9名
令和 5年 10月 25日	「送迎車に求められる技術やマナー」	7名
令和 5年 12月 20日	「緊急時の対応と救命処置の手順について」	9名
令和 6年 2月 28日	「入浴・更衣・整容の介助について」	不 13名

【リハビリ課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 5年 4月 25日	「総合臨床実習について」	9名
令和 5年 6月 26日	「脳卒中片麻痺患者の歩行障害を理解する」	7名
令和 5年 8月 2日	「実習報告」	3名
令和 5年 11月 17日	「自立支援のためのノーリフティングケア」	5名

※不参加職員には資料配布

年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和 5年 7月14日	七夕行事	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供 (練り切り)
令和 5年 9月 8日	花火大会	施設内駐車場	季節感を味わう打ち上げ花火の提供	花火鑑賞
令和 5年 9月20日 9月21日	敬老会	施設内 各フロア	長寿の表彰式 お互いの長寿を一緒に祝う	職員による出し物
令和 5年10月23日	紅葉行事	施設内	季節感を味わう行事を提供	季節の和菓子提供 (練り切り)
令和 5年12月27日	餅つき大会	施設内 各フロア	季節感を味わう行事を提供 年の瀬を感じて頂く。	利用者様と一緒に餅つき
令和 6年 2月13日	節分行事	施設内 各フロア	他利用者との交流を深め、季節感を 楽しんで頂く	利用者様と一緒に豆まき

※コロナ禍のため外出行事はなし

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和5年 6月26日～8月4日	秋田大学（学生1人）	リハビリ実習
令和5年 7月27日・28日	横手市立増田中学校（2年生 2人）	通所リハビリテーション 職場体験
令和5年 9月20日～22日 9月25日	県立衛生看護学院（学生9名）	看護実習

防災計画の状況

令和5年 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年6月28日 午後2時10分～2時50分	職員総数 28名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 1名 利用者様 3名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火活動に使用する設備・器具の取扱い訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年10月31日 午後2時20分～2時50分	職員総数 20名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 1名 利用者様 6名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 (3月、9月)
自主点検	月 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令和5年度同様令和6年度も実施整備する。

令和5年度 グループホームひだまりの家 総括

今年度も感染症の影響を受けた一年となった。職員、その家族の新型コロナウイルス罹患またはその疑いも含むと所属する職員全てが一度は出勤を控えるケースがあった。また入居者様に関しては時期をずらして3名の罹患が確認された。前年度に施設内で新型コロナウイルスが確認された際はいぶきユニットを用いて対応したが、職員の負担の大きさと認知症を患われている入居者様の心的負担を鑑みて今年度は各居室内での隔離対応とさせていただいた。各入居者様については重度化する症状は無かったが、感染対応に苦慮したが職員のがんばりもありクラスターとはならなかった。

行事等についてですが今年度も地域文化祭にお誘いいただき作品を出展することができた。しかし感染症の影響もあるが、特に配慮が必要な入居者様が増えてきており計画通り実施できないケースや日常生活の中での取り組みについても少なくなってしまった。今後はそういった中でも試行錯誤しながら行事等を実施していきたい。

入退居については退居が2名で内入院退居1名、ホーム内での看取り1名。入居はりんごの里より2名の入居と自宅からの入居が1名であった。入院退居に関しては終末期の方であったが積極的な治療の是非について、ご家族の複雑な思いを主治医と連携しながらその都度対応させていただいた。揺れ動くご家族の思いを目の当たりにし改めて終末期対応の難しさを感じた。

運営推進会議や面会についてはいぶきユニットを活用し対面での実施を再開し、それが起因となる感染は確認されなかった。運営推進会議についてはやはり対面開催であると出席者より意見が挙がる事が多く顔を合わせて話し合う事の意義を再確認した。

年度中に1名の退職があり、少ない状況の中でも職員の協力もあり大きなトラブルなく乗り切る事ができた。また職員の平均年齢が50歳を超えており、一部職員の負担が大きくないよう調整している。

行事等でも記載したが、職員への依存が強い方、他者に対して攻撃的な言動・行動が顕著な方、転倒リスクが上がってきた方、帰宅願望の強い方など配慮の必要な方が多くなってきている。日常生活においてもそこに職員力を割かなければならない場面が非常に増えてきている為、日々それに追われてしまっているが、入居されている方々の生活がより良いものになるように職員間で協力しながら対応していきたい。

令和5年度「グループホームひだまりの家」

各種委員会総括

「身体拘束廃止委員会」

1. 身体拘束が必要なケースは無く、該当するような対応も無かった。
2. 不適切なケアチェックを実施し、日頃のケアを振り返る機会を持つことができた。
3. 会議や学習会を通じて身体拘束廃止に向けた意識の共有ができた。

「業務改善・研修委員会」

1. 外部研修に職員を派遣することが出来なかった。
2. ヒヤリハットの報告はあったが重大なトラブルは無かった。
3. 計画通りに学習会を開催する事ができなかった。

「感染対策委員会」

1. 面会の制限や外出の抑制や感染対策を徹底したが、5月にホーム内で新型コロナウイルスが広がってしまった。(入居者様3名、職員3名)それ以降は職員やその家族に陽性が確認されたことがあったが入居者様の感染は確認されなかった。
2. 風除室でのビニールカーテン越しでの面会対応としていたが、新型コロナの5類移行を受けいぶきユニットを使用した対面面会を実施したがそれによる感染は確認されなかった。職員は体調不良の際は遠慮せずにその旨を報告し代替職員も協力し合って対応できた。
3. 感染症発生時のシミュレーションを実施していたが、その場での指示が多くなり特定の職員の負担が多くなってしまった。

「広報・介護機器検討委員会」

1. 「あがってたんせ」を発行することができなかった。
2. ひだまり通信に普段様子やイベント時の写真を掲載しご様子を伝えることができた。
3. トラブルなく介護機器を点検・使用した。

「環境美化委員会」

1. 春先の職員の欠員等にて畑を活用することができなかった。

「事故発生防止委員会」

1. 大きな怪我につながるトラブルはなかった。
2. 毎月の会議において入居者様の個別リスクを確認し対応について確認する機会を持った。

「企画委員会」

1. 今年度も地域文化祭へ入居者様との製作物を出展することができた。
2. 入居者様とご家族が交流する機会は感染対策もあり行えなかった。

「食事委員会」

1. 入居者様にも食事作りや後片付けに参加していただく事で役割をもった生活を提供できた。
2. 塩分の調節に、味噌汁碗を小さい物へ変更することで対応することができた。
3. 今年度も入居者様と買い出しに行くことは実施できなかった。
4. 生協を活用し入居者様と季節の食材を使いながらコミュニケーションをとる事ができた。
5. 包丁やまな板、生鮮食品の衛生管理をし食中毒予防を徹底した。

「計画作成担当委員会」

1. 個々の状態や要望を反映したケアプランを立案できた。昨年に引き続きケアプランにご家族の意見等を盛り込むことで一層、同じ目線で入居者様を見ることができた。

「高齢者虐待防止委員会」

1. 高齢者虐待にあたるような対応は無かった。
2. 不適切なケアチェックを実施し日頃の対応を振り返る機会が持てた。
3. 会議や学習会を通じて高齢者虐待防止について理解を深める事ができた。

令和5年度年間行事実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標
令和5年4月19日 ～4月25日	お花見ドライブ	増田町内 梨木公園 真人公園 前森公園 横手城	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和5年5月18日 ～9月15日	ドライブ	羽後町方面 十文字方面 山内方面 浅舞方面 雄物川方面 成瀬ダム 東成瀬方面	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。
令和5年7月28日	バーベキュー	敷地内	入居者様の交流を図る。 気分転換を図る。
令和5年11月18日 ～19日	増田町地域文化祭	増田体育館	地域との関わりを持つ
令和5年12月28日	餅つき	ひだまりの家	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和6年1月3日	書き初め	ひだまりの家	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和6年2月18日	かまくら見学	ふるさと村	入居者様の交流を図る。 季節を感じる行事の提供
令和6年2月25日	アートトリップ	近代美術館	イベントに参加する。

『グループホームひだまりの家』

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視察・慰問者名	備考
令和5年度	新型コロナウイルス感染対策の為、実績無し。	

防災計画の状況

令和5年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中想定）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年6月28日 午後1時30分～1時45分	職員総数	6名
	羽後電設	1名
	横手市消防局南分署	3名
	入居者様	8名
		消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練（夜間想定）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年10月31日 午後1時30分～1時45分	職員総数	6名
	羽後電設	1名
	横手市消防局南分署	3名
	入居者様	8名
		消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 1回 (3月)
------	-------------

上記点検等は令和5年度同様、令和6年度も実施整備する。

令和5年度 グループホームひなたの家 総括

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月から5類に移行になったものの、感染対策はほとんど変わらずに継続して実施した。そのため令和5年度の活動は前年度までと同様、感染対策に重点を置いた上での活動となった。

コロナ禍になってからは室内での活動が主であったが、今年度は感染対策を行いながらドライブの回数を多くし外に出かける機会を増やした。人が集まるところを回避し、四季や地元の行事を楽しむことが出来る場所へ多く出かけ、入居者様には大変喜んでいただくことが出来た。また、室内での活動は定番の行事の他に職員が企画したイベント等を随時実施、誕生会を含めると今年度は60件を超える回数を行うことが出来た。今後も感染状況を見ながら、少しずつでも活動の範囲を広げられたらと思う。

今年は3年ぶりに外部評価を実施した。評価機関から評価員が2名訪問したが、感染対策をしっかりと行った上で実施した。指摘事項や「次のステップに向けた助言」等はなく、「本人の意向に沿ったケアが出来ており、利用者本位によく考えられている」との高評価をいただいた。これまで取り組みについて常によりよくすることに重点を置いて行ってきたが、今回の外部評価で高く評価していただいたことは自分たちの大きな励みになり、それぞれのやる気にもつながったことであった。慢心することなく今後も継続して取り組みを行っていききたい。

入居者様関係では緊急対応は1件、入院1件のみで例年より件数が少なく、状態的には比較的安定した一年であった。入退居関係では、1名の入れ替えがあった。1名の方の身体レベル低下に伴いりんごの里に転所、空床のところへりんごの里から1名入居された。今回はりんごの里との連携により、お互いに良いタイミングで補い合うことが出来た。今後も情報交換を行い連携をとっていききたい。

来年度もコロナウイルスの感染対策については、これまでと大きな変化はないと思われる。グループホーム本来の活動を行うまでには、どれくらいの期間が必要かはわからないが、制限のある中でも利用する入居者様の満足につながる質の高いサービスの提供が行えるよう、それぞれの知識、技術、資質の向上に努めたい。

令和5年度「グループホームひなたの家」 各種委員会総括

「事故発生防止委員会」

1. ①毎月事故等の集計を行い、毎月の会議でその内容の確認を行った。会議に参加していない職員にも回覧し、周知を図った。
②毎日の生活表に、ヒヤリハットの記入欄を設け、すぐに書くことが出来るように工夫を行った。当日中に原因、対応策まで検討、周知されていた。
2. ①毎月の会議で事故については対応策が行われているか点検できていたが、ヒヤリハットまではできていなかった。
②月末の連絡ノートでの事故予防の呼びかけを忘れてしまうことが多かった。今後は油断せず、呼びかけを行っていく。

「食事委員会」

1. ①一人一人に合った食事提供が出来ていた。
②食事作りができる方が限られているが、残存能力を生かして入居者様と一緒に食事準備等ができていた。
③季節感のある献立が提供できた。
2. ①消費期限ぎりぎりの使用がたまにあった。買いすぎているところがあった。
②費用対効果を意識した食事作りが出来ていたと思う。
3. ①行事食について、ふさわしい献立が提供できたと思うが、量が多くなってしまいう傾向があった。
②誕生会の食事内容は、入居者様に事前に聞き取りをし、伝えることが難しい方の場合には日頃の好みに応じた食事を提供、その人に合った食事内容を提供できた
③職員からの提案で行事食が充実していたと思う。

「行事委員会」

1. 役割の分担のが明確ではなく、行事毎に分かりにくいところがあった。
2. 会議で行事の流れについての周知は確実に行えた。
3. 職員からイベントのアイデアを募集し実施した食事行事は充実していた。

「計画作成委員会」

1. ご家族、入居者様それぞれに意向を確認、とりいれたプランを作成できた。
2. 入居者様の状態の変化など観察を行うとともに職員全員から意見をもらい、プランに反映させることができた。
3. 変更箇所などの詳細について毎月の会議で報告し、浸透を図った。
4. 状態変化によってプランの変更の必要があったケースは今年度はなかったが、状態に合わせた変更がすぐできるよう努めた。

「広報委員会」

1. 認知症に関する情報を発信し、内容的にとってもよくできていたと思う。
ひなたの家の取り組みについて詳細にかつ分かりやすい内容とし、紙面の構成やデザインも工夫を行った。

「感染対策委員会」

1. 勉強会を通じて知識を深め、各自予防対策、感染防止に努めた。
2. 毎月のひなた会議で感染対策について意識を高め、プライベートでも感染対策に努め、習慣付けが出来ていた。
3. ケア前後の手洗い、手袋の正しい着用は意識して行われていた。
4. トイレ後の手洗い、消毒を入居者様に行っていただいております、できない方には介助していた。
5. 入居者様の外出時、マスク着用を行っていただいたが、咳エチケットまでは行えていなかった。

「環境美化委員会」

1. 毎日チェックシートを活用し、役割を決めて入居者様をサポートしながら行うことが出来た。
コンセント清掃、大掃除のチェックシートを作成し、各自勤務時間内で概ね行っていた。
2. 野菜と花の苗と一緒に植える作業を楽しく行うことが出来た。
水やりは、できる入居者様が限られた方になり、また気温が高く、早い時間帯に行わなければならない、早番の職員が行うことになってしまった。
収穫は、猛暑日が続いたこともあり、涼しい時間帯に一部入居者様と限定的に行った。行った入居者様は収穫を楽しまれていた。
3. 壁画は、季節ごとに行うことはできなかったが、前年の作品をアレンジして飾り、季節感のある雰囲気作りに努めた。
書道は、毎月季節に合った文字を書いてもらい居室前に展示した。ぬり絵は自身の作品を自身で展示される方もおられ、喜びや達成感につながったと思う。

「身体拘束廃止委員会」

1. 不適切ケアについてチェック表を用いて振り返りを毎月行った。毎月チェックを行う際に項目を読み込み、項目に基づいて振り返り、意識づけが出来てきていると思う。以前より×数が少なくなってきたおり、改善が見られている。
2. 「身体拘束廃止」について年二回勉強会を開催し、理解を深めた。行った内容は回覧を行い、全員に周知を行った。
3. 委員会を概ね三か月に一回開催し、その内容を回覧し全員に周知した。チェック表を通して、尊厳のあるケアが出来ているかを全員で点検、集計を行い、チェックの多かった項目について毎月の会議でどうあるべきかを話しあう機会を作った。

令和5年度 年間行事の実施状況

実施月	行事名	場所	具体的目標
令和5年 4月11日	お花見ドライブ	真人公園	季節感を味わっていただく
4月18日 19日	お花見ドライブ	真人公園・梨木公園	季節感を味わっていただく
6月11日	花と野菜の苗植え	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 入居者様同士の交流を図る
6月26日 27日 7月2日 3日	あやめまつり見物	浅舞公園	季節感を味わっていただく
7月6日	七夕行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
7月13日	バーベキュー	ひなたの家車寄せ	好まれるものを食べて満足感を感じていただく 季節感を味わっていただく
8月5日 6日	七夕絵どうろう見物	湯沢市	季節を感じていただき、気分転換を図る
8月8日	すいか割り	ひなたの家内	すいか割りを楽しみながら季節のものを味わい満足感を感じていただく
8月13日	お盆行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
8月15日	すいか割り 2	ひなたの家内	すいか割りを楽しみながら季節のものを味わい満足感を感じていただく
8月25日	ひなたの家納涼祭	ひなたの家内	季節を感じていただき、気分転換を図る
9月8日	打ち上げ花火鑑賞	ひなたの家敷地内	季節を感じていただき、気分転換を図る
9月17日	ボーリング大会	ひなたの家内	体を動かし、気分転換を図る 入居者様同士の交流を図る
9月18日	敬老会	ひなたの家内	職員から日頃の感謝を伝え、長寿を祝う
9月23日	お彼岸行事 おはぎ作り	ひなたの家内	食事を通して季節感を味わっていただく

実施月日	行事名	場所	具体的目標
9月29日	十五夜	ひなたの家内	季節を感じていただき、気分転換を図る
10月 2日	秋の大運動会	ひなたの家内	ゲーム等体を動かす機会を作り、入居者様同士の交流を図る
10月 9日	スポーツの日 バスケット大会	ひなたの家内	スポーツを通して入居者様同士の交流を図る
10月13日	芋煮会	ひなたの家内	旬のものを味わい季節感を味わっていただく
10月23日 25日 30日 11月 3日	紅葉ドライブ	真人公園 狙半内方面 東成瀬方面	季節感を味わっていただく
11月 9日	収穫祭	ひなたの家内	旬のものを味わい季節感を味わっていただく
11月22日	紅葉ドライブ	山内道の駅	季節感を味わっていただく
11月23日	紅葉ドライブ	横手方面	季節感を味わっていただく
12月27日	忘年会	ひなたの家内	ゲームや職員の余興を通して忘年会の雰囲気味わっていただき、気分転換を図る
令和6年 1月 1日～ 3日	正月行事	ひなたの家内	食事やお正月らしい活動を通して季節感を味わっていただく
1月 4日～ 5日	初詣	月山神社	季節感を味わっていただく
1月26日	新年会	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
2月 3日	節分行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
2月 8日	ひなたの家15周年 祝賀会	ひなたの家内	ひなたの家15周年を祝う
2月11日 12日	かまくら見物	十文字町内	季節感を味わっていただく
2月17日	ぼんでん見物	増田町内	地域の行事を見物し、季節感を味わっていただく
2月18日	かまくら見物	横手市内	季節感を味わっていただく
3月 3日	ひな祭り行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく
3月20日	彼岸行事 おはぎ作り	ひなたの家内	彼岸にちなんだものを一緒に作りながら季節感を味わっていただく

『グループホームひなたの家』

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視察・慰問者名	備考
令和5年度	新型コロナウイルス感染対策の為、実績無し。	

防災計画の状況

令和5年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年 6月 28日(火) 13時50分～14時05分	職員総数 6名 入居者様 9名 横手消防署南分署員 4名 セフティ 1名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練（夜間訓練）

実施日	参加者数	主な内容
令和5年10月31日(火) 13時50分～14時05分	職員総数 6名 入居者様 8名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 1名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 1回	(10月)
------	------	-------

上記の点検等は令和5年度同様令和6年度も実施整備する。

令和5年度 ショートステイ ラ・ボア・ラクテ 総括

1.
 - ①利用者様の状態やニーズは年々多様化しているが、利用者様毎に情報を的確に把握しながら個別性の高いサービス提供が行えている。特に機能訓練ではニーズや状態に合わせて個別リハビリを実施し身体機能維持・向上、在宅生活の継続・再開に繋げることができている。今後も地域に於けるショートステイの役割が果たせるよう、ご家族・関係機関との連携を密にしながら利用者様の望む生活が送れるように支援したい。
 - ②感染症予防のため、今年度も対外的な催しは中止し、家庭介護者教室においては、家庭でできる体操をまとめたリーフレットを作成し、配布を行った。地域住民への情報発信、地域交流のためにも来年度は教室を開催できるよう検討していく。
 - ③住み慣れた地域や自宅を中心に本人らしい生活が送れるように、利用者様一人一人の状況に応じて各部署及び関係機関等と連携を深め支援することができた。機能訓練や行事に特色を持たせることで、利用者様の社会参加や身体機能維持・向上に努めることができた。今後も施設の特色を活かし、サービス提供がより充実するよう努めたい。
 - ④新型コロナウイルスのクラスター発生があり、感染対策の見直しを行い、職員へウイルスの持ち込みを防止するための対策をあらためて周知・徹底した。令和5年度はインフルエンザウイルスなど様々な感染症の流行が県内で見られたため、今後も適宜感染対策の見直しを行い、ご家族・利用者様に安心してご利用いただける施設づくりに努めていく。
2.
 - ①目標管理シートを作成し、自己評価・上司評価を行った。それを基に個人面談を実施し、各職員に合わせた指導を行うことで、職員一人一人が目標を持ちながら業務を行えるよう努めた。
 - ②今年度から外部研修への参加を再開し、オンライン開催の研修と併せて職員が研鑽を積む機会を増やすことができた。今後は研修で習得した知識の他職員への共有を徹底し、業務に反映できるようにしていく。
 - ③技能チェックリストを用いて自己評価・上司評価を行った。本人と上司で評価内容のすり合わせを行い、職員それぞれが得手不得手を把握することでモチベーションの維持やスキルアップできるよう努めた。今後も評価の内容を踏まえ更に専門知識や技術の向上を図り職員一人一人が役割を持ちながら施設全体がレベルアップできるようにしていく。
 - ④⑤各部署会議、定期カンファレンス等を通じて、利用者様課題を共通認識として持ち、生活の質を向上させるためのサービス提供を行えている。また、現状維持ではなく、サービスの質の向上、職場環境の充実を図るため、適宜業務改善を行っている。今後も継続して職員が長く勤務できるような職場づくりを行っていく。
3.
 - ①事前訪問、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、ニーズを的確に把握し、各専門職がサービス提供できた。今年度はご家族との対面での面会を再開し、モニタリングの件数も増えたため、ご家族やケアマネジャーとの情報の伝達、共有を密にして信頼関係を構築することができた。
 - ②事前訪問調査、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、利用者様の生活課題や援助方針を的確に把握しながら、各専門職が果たす役割を明確にできている。今後の課題としては、実施したサービス提供が効果的であったかを評価する体制を構築していきたい。

③フロアの特徴や季節に応じた活動が実施できている。感染対策によりフロアをまたぐ活動を中止していたため、今年度はレクリエーションプロジェクトを廃止し、各フロアの副主任をレクリエーション担当とした。フロアごとに定期的にレクリエーションの日を持ち工作・運動など様々な活動を提供し、利用者交流、心身のリフレッシュ、生活意欲の向上に繋げることができた。

④建物設備等の保守・点検を行い、快適な生活環境の維持に努めた。しかし、各フロアの食堂で雨漏りがあり、年度内の修繕が行えず次年度に持ち越すことになった。今後は素早い対応が行えるよう業者との連絡を密に取っていく。

4. ①②特殊浴槽の入替、電動ベッドの導入、ユニフォームの入替、経年劣化による修繕費の増加があったが、消耗品などの見直しを行い低価格のものへ入れ替えたことで事務消耗品費の大幅な削減が行えた。使用感などの評価も行ったうえで入れ替えを実施し、質の維持も出来ている。

③電気・ガス・水道の使用量管理、啓発活動を徹底したことに加えて電気料金に関しては補助が出ていたため、水道光熱費は前年度より900万円以上の削減となった。

④「職業意識とコスト意識に繋がる生産性向上」をテーマに勉強会を開催した。職員の意識改革やコスト削減に繋げるためには継続した取り組みが必要なため、今後は勉強会に加え定期的な啓発活動を行っていく。

5. ①②③城東消防署と連携し、安全に配慮しながら年2回の防災訓練を行った。避難経路や避難方法の見直しも行き、円滑な有事対応を検証することができた。また人員変動に伴った防災マニュアル及び消防計画の見直しができている。緊急連絡訓練の実施も年2回行うことが出来た。今年度は秋田市で大雨災害があったが、施設の罹災に備え職員・委託業者協力のもと、低層階の利用者様の避難、施設車両の移動、食事提供体制の確保等迅速な対応を行うことが出来た。また、連絡網を活用し、施設周辺の冠水情報などを発信することで出勤職員の安全確保を行うことも出来た。有事の際に円滑な対応が行えるよう今後も継続した取り組みを行っていきたい。

以上

各種委員会総括

『給食改善検討委員会』

- ①利用者様からの意見をもとに嗜好を考慮し、食べづらい食材を控え、メニューの変更や廃止等、献立にできる限り反映するよう取り組んだ。利用者様の状態が日々変化していくため、厨房業者と情報共有し、個人対応や食形態等より良い食事の提供に努めた。メニューがマンネリ化していると利用者様や職員から声があり、委託業者へ相談し、新メニューも増えている。
②カンファレンス時や日頃の生活の中で気になったことを職員間で情報共有し、個人に配慮した食事の提供ができるよう取り組んだ。利用者様からの直接の声、職員からの状況報告をもとに話し合い、新たな個人対応や形態の変更等、改善に努めた。食事摂取量が少ない利用者様については職員と相談して対応を考えた。
③四季を考慮した行事食を提供するとともに、利用者様がおやつ作りに参加する「ボア喫茶」に取り組んだ。今年も新型コロナウイルス等感染症の影響により、「ボア喫茶」の開催が延期や中止になることが多かった。行事食はいつもと違うお食事でもとも好評だった。各職員で連携しながら前年度の改善点をもとに計画を考えて実施することができた。
- ①改善が必要なメニューについては、委託業者と話し合い変更している。食材、味の組み合わせを考え、新メニューを取り入れている。

次年度も衛生管理を徹底し、安心安全な食事の提供に努めたい。また、確認不足によるミスを減らし、信頼に繋げられる食事作りを厨房業者と連携を取りながら行っていきたい。

嗜好調査や家族アンケートの意見等、改善点を踏まえながら新たな取り組みに挑戦し、より良い食事を目指していく。

『家庭介護者教室運営委員会』

コロナやインフルエンザの再流行に伴い、前年度に引き続き各ご家庭へのリーフレット配布という形での活動となった。年2回のリーフレット配布を実施したが、準備・作成段階で時間を要してしまった。その中で役割分担が偏ってしまったことが課題となった。

今後の感染状況等に応じてリーフレットによる活動を継続し、年2回を目標に作成・郵送していく。感染状況を見ながら、家庭介護者教室の開催も検討していきたい。次年度は、テーマ内容をフロアごと等にワークシェアリングし、より多くの情報を集めた上で資料の作成を試み、精査し各ご家庭へ介護に於ける参考資料の提供に努める。

『行事委員会』

外出行事、梅若会や竿燈などいくつかの慰問行事を行う事が出来た。中には延期や中止になった行事もあったが行われた行事はいずれも好評で利用者様には楽しんでいただけた。行事全体を通して、マスク着用、消毒、必要に応じて手袋の着用等、感染対策を行ったうえで事故などはなく安全に各行事を終えられた。しかし、感染対策を行っていたにもかかわらずコロナ感染、拡大を招いてしまった。今後も感染対策に留意しつつ利用者様に楽しんでいただける行事を行っていききたい。今期で行われた行事で出た課題は来期で行われる行事に反映し改善していく必要がある。行事内容もマンネリ化しつつあり同じ行事でも内容の変更や今まで行った事のない行事を検討していく必要がある。

『広報委員会』

3ヶ月に1回のペースで広報誌を発行した。利用者様に季節を感じていただける様な行事を開催し、その行事の様子その他、栄養士主催のボア喫茶の様子など、ラ・ボア・ラクテならではの取り組みを掲載し、施設の特色を周知した。

また、コロナ禍でなかなか会うことのできないご家族へ広報誌を通じて施設での利用者様の様子を伝えることができた。

ホームページリニューアル以降、ホームページへの掲載が出来ていないので、次年度は施設の取り組みや特色を多くの方に知って頂けるよう、皆さんの目にとまるような広報誌の作成と、ホームページを活用した迅速な情報発信を行うよう努めたい。

『感染対策委員会』

- ①月1回委員会を開催し、秋田県内・市内感染状況の共有と、フロア毎に換気などの感染予防対策の実施状況について確認した。昨年度同様、感染委員でケアサポート課職員全員に対してガウンテクニックの確認を行った(2回/年)。ガウンの着脱について清潔・不潔について曖昧な職員もおり、来年度も継続して行っていききたい。また、今年度はフロア毎に1回ずつ(計3回)感染・褥瘡についてテーマを決めて委員会内でミニ勉強会を行った。委員自身が興味のあることについて自分で調べることで知識の向上にもつながったと考える。
- ②8月に施設内でコロナウイルス感染症のクラスターが発生した。マニュアルに基づき感染対策を行い、終息後に委員会で振り返りを行った。今回初めて複数フロアにわたるクラスターを経験し、多職種で話し合うことで新しい気づきがあった。今回の反省点を踏まえ、職員の消毒ボトル携帯と発生時のポスターを作製した。予定していた発生時訓練がクラスターによりできなかったため、来年度行いたい。
- ③コロナウイルス感染マニュアルを10月に改訂、他感染症でも同様の動きが取れるように、『感染症(新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス等)集団感染発生時の対応』に名称を変更した。
- ④今年度は「新型コロナウイルス感染症の発生時の対応とマニュアルについて」の勉強会を行った。クラスター後のふりかえりで実際にどう動けばいいのか分からなかったという意見が多かったため、実際にクラスター時の写真を使用して説明した。また、実際に手指消毒やガウンの着脱について演習した。来年度も職員が学びたいことについて意見を聞きながら勉強会を開催したい。

『褥瘡対策委員会』

月1回委員会を開催し、利用者様のADL・褥瘡状況などの情報共有とベッドマットが適切か評価を行った。褥瘡を繰り返す・ADL低下している利用者様に対してベッドマットの変更を行い、褥瘡改善することが出来た。またフロア職員の協力もあり、体調の悪化に応じて体位交換を行うことが出来た。今年度は除圧マットが2種類追加となり、さらにリスク状態に応じたマットの選択が可能になった。今後も利用者様が安楽に過ごせるように利用者様一人一人に適したポジショニングやケアを実施していきたい。

『身体拘束廃止委員会』

- ①利用者様一人一人の安全の確保と尊厳を保持する為、個々に適したセンサーの設置を行い、適正について都度評価をする事ができた。不必要なセンサーを設置していないか、故障や不具合がないか等を日々確認し、又月1回委員会後に確認作業を実施した。物理的な要因だけでなく、心理的要因にも目を向け、利用者様の心のケアに力を入れる事ができた。スピーチロックや不適切な声掛けがないか、委員会を中心に観察し、会議内での啓発を積極的に行う事ができた。
- ②今年度も身体拘束ゼロであった。
緊急時やむを得なく、身体拘束が必要になった場合に備え、身体拘束解除に向けての取り組みなど委員会や勉強会を通して確認を行った。
身体拘束ゼロ、廃止に向け、又それを必要としない介護を行っていく為、利用者様の状態の把握に努め、情報共有を徹底していく。
- ③施設内の研修については委員会主催で年2回勉強会を実施する事ができ、身体拘束の振り返りや更なる知識の習得を図る事ができた。昨年度同様、施設外の研修は新型コロナウイルスの影響により、参加する事ができなかった。

『高齢者虐待防止委員会』

- ①②前年度同様、虐待の予防、不適切な介護の防止として、委員会主催での勉強会の実施、委員会会議内での職員への啓発、知識の習得に努める事ができた。身体的な部分だけでなく、心理的な部分にも焦点をあてる事ができ、今年度、施設内外での虐待は認められなかった。
介助中にできたと思われる内出血斑、原因を特定する事が難しい内出血斑が多数あった。虐待と疑われる事がないように原因の把握、適切で安全な介助方法の周知と対応策の徹底を行っていく。
職員のストレス把握の為、ストレスチェックを実施している。大きな変化はみられていないが、職員の状態の変化の把握は今後も継続して行っていく必要がある。
虐待の早期発見の為、利用者様の状態把握、送迎時の観察を行う事を発信していく事ができた。引き続き、観察を行っていく。
- ③施設内の研修については委員会主催で年1回勉強会を実施し、個々の知識の習得と理解を深め、啓発を行う事ができた。昨年度同様、施設外の研修は新型コロナウイルスの影響により、参加する事ができなかった。次年度はオンライン研修等への参加を積極的に行い、知識の習得に繋げていきたい。

『事故発生防止委員会』

1. ①前月の各部門で挙げたヒヤリハット、気づき報告の周知と、前月事故の集計・分析、1か月前の事故の対応策についての振り返りを行った。今年度の事故発生件数、及び前年度比については下記の表を参照。事故件数の累計は110件で前年度より49件減少している。転倒・転落、皮膚トラブルは共に減少しているが、薬に関連する事故（表記：誤薬）が累計で6件と昨年度より3件増加している。原因としては対応策が継続して実施されていない事が最も大きな要因ではないかと考える。事故減少の為には対応策の周知徹底と継続的な実施が求められる。委員会と役職者が中心となり継続的に対応策が実施出来るよう働きかけていく。服薬方法や服薬前後の確認については介護係で統一し効果的な方法を共有する。

職員の不注意で発生した事故も前年度と比較すると28件減少はしているものの、不注意の事故が63%、不可抗力で発生した事故が37%となっており、依然として不注意の事故が多くなっている。結果として防げたと思われる事故が多かった。

事故の発生場所としては、前年度同様、居室内が一番多く、次いでトイレ、食堂となっている。居室内での事故は前年度より11件減少はしているが事故の56%が居室で起きている。居室内のリスク把握や環境整備などが柔軟に実施出来ておらず、事故のリスクに対しても敏感に対応出来ていない。危険な行動があればとりあえずセンサー対応にすればいいといった単一的な思考になってしまっている。センサーに関しては使用者が多くなり、自ら自分たちの業務負担を増大させ、自分の首をしめている状況が散見される為、定期的な対応の見直しを図っている。

今後も介護技術を含む統一对応を定着させ、各職員のトラブルに関する意識向上を進めていく。日々の生活の中で、ヒヤリハット、気づき報告の積極的な記入やトラブル対応策に対する定期的な見直しを継続して、意識、観察力向上につなげていく。

	転倒 転落	誤薬	皮膚 トラブル	チューブ トラブル	誤嚥	その他	累計
今年度	57件	6件	23件	5件	2件	17件	110件
前年度比	-17件	+3件	-18件	±0件	+1件	-18件	-49件

②新規採用者には、事故防止のための当施設の取り組みである、ヒヤリハットの運用、気づきの報告書について周知。学習会の開催については、感染対応の事情により開催できなかったが、「事故発生予防と再発防止」については、月々の発生状況資料の配布や委員を中心に再カンファレンスの実施により、各職員の観察力や意識の向上に繋がられたと思う。「緊急時の対応（応急処置など）」については、実施できなかったので次年度で行っていきたい。

③新型コロナウイルスの予防の為、外部研修等への出席は控えた。

『安全衛生管理委員会』

福祉用具の安全点検を年2回実施し、必要箇所は修繕を行っている。福祉用具以外の設備関係についても適宜点検・修繕して労働災害の防止に努めた。また、今年度は受動喫煙防止宣言施設に登録するなど、職員の健康面の管理強化や、メンタルヘルスケアについての情報発信を行い精神面のケアにも努めた。今後も継続した取り組みを行い労働災害防止に努めていく。

研修・出張の実施状況

【ショートステイ ラ・ボア・ラクテ】

参加年月日	研修内容	場所	参加者
令和 5年 6月 1日	はじめての給与事務担当者研修	オンライン	堀井 志穂
7月14日	タイムマネジメント研修	オンライン	東海林 遼
7月25日・26日	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員コース	秋田県社会福祉会館	佐藤 要輔
8月 3日	令和5年度エルダー・メンター養成研修	オンライン	渡部 祥子
8月18日	令和5年度説明力・説得力向上研修	秋田県社会福祉会館	山口 洵
9月13日	オンライン研修の受講（令和5年度福祉保健施設長研修）	オンライン	渡部 祥子
11月 2日	令和5年度OJTリーダー研修	オンライン	斎藤 豪志
11月14日・15日	令和5年度甲種防火管理者新規講習	秋田県生涯研修センター	渡部 祥子
11月16日・17日	令和5年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員コース	秋田県社会福祉会館	田中 智晃

職員学習会の実施状況

【ラ・ボア・ラクテ】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 5年 5月31日	食中毒発生予防・対策について	10名
7月28日	高齢者虐待について	5名
10月27日	コスト意識勉強会について	9名
12月 6日	新型コロナ感染症対策とマニュアルについて	10名
令和 6年 3月 6日	個人情報保護・法令遵守・倫理について	7名
4月 3日	看取り介護と精神的ケアについて	12名

令和5年度年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和5年4月4日 4月5日 4月6日	春のいちご 行事	施設各フロア	季節感を味わう行事提供 他利用者との交流を図る	お菓子の提供 とレクリエー ション
令和5年4月18日 19日 20日	外出行事（花 見）	広面近隣公園	春の空気に触れ外出を楽 しんでいただく	花見 散歩
令和5年5月14日	母の日行事	施設各フロア	女性利用者へ感謝を伝え る 他利用者との交流を図る	花・メッセー ジカード贈呈
令和5年5月15日 5月17日	お茶会行事	施設各フロア	季節感を味わう行事提供	抹茶・お茶菓 子の提供とレ クリエーショ ン
令和5年6月15日	開設記念行事 （梅若会慰問）	施設各フロア	施設の開設日をお祝い 地域の機関と交流を図る	慰問
令和5年6月18日	父の日行事	施設各フロア	男性利用者へ感謝を伝え る 他利用者との交流を図る	花・メッセー ジカード贈呈
令和5年7月5日	夏祭り	施設各フロア	他利用者との交流を図る 祭りを開催し非日常的な 時間を過ごす	催し物 屋台
令和5年7月22日	竿燈慰問行事	正面玄関	地域の機関と交流を図る	慰問
令和5年8月9日	すいか割り行 事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提 供 他利用者との交流を図る	すいか割りの 実施
令和5年9月19日	敬老会	施設各フロア	利用者の長寿を祝う	長寿の表彰 記念品の贈呈
令和5年10月31日	ハロウィン行 事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提 供 新しい文化に触れ刺激を 受けていただく	職員の仮装 お菓子の提供
令和5年11月8日 9日 10日	外出行事 （紅葉）	一つ森公園方 面	季節の移り変わりを楽し んでいただく	ドライブ

令和 5年11月22日	大運動会	施設各フロア	他利用者との交流を図る 身体を動かしたりフレッシュしていただく	2種目の競技実施
令和 5年12月27日 28日	もちつき行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	もちつきの実施
令和 5年12月18日 ～22日	冬至(ゆず湯)行事	5階浴室	季節感を味わう行事の提供	ゆず湯に入浴
令和 6年 2月 6日	節分行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	豆まきの実施
令和 6年 2月13日 14日 15日	バレンタイン行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	チョコ系のおやつを提供
令和 6年 3月 6日	ひな祭り行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	甘酒の提供とレクリエーション
令和 6年 3月13日 14日 15日	ホワイトデー行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	どら焼き作りの実施
令和 6年 3月19日	あきた舞妓慰問行事	施設各フロア	地域の機関と交流を図る	慰問

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和5年		
4月18日・19日	澁谷 絵美里 様	介護現場実習
6月15日	梅若会 様	開設記念行事 慰問
7月22日	駅東竿燈会 様	竿燈実演 慰問
7月31日	秋田令和高等学校 様	インターンシップ
8月 1日・ 2日		
10月 4日・ 5日	秋田県歯科医療専門学校 様	介護職員初任者研修の実習
11日・12日		
18日・19日		
23日・24日		
25日・26日		
30日・31日		
11月 1日・ 2日		
令和6年		
3月19日	あきた舞妓 様	演舞実演 慰問

防災計画の状況

令和5年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練(夜間想定)

実施日	参加者数	主な内容
令和5年6月29日 午後2時00分～2時30分	職員総数 20人 利用者様 42人 猿田興業株式会社 1人 城東消防署 3人	消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 消火訓練 屋内消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練(日中想定)

実施日	参加者数	主な内容
令和5年12月20日 午後2時00分～2時25分	職員総数 21人 利用者様 3人 猿田興業株式会社 1人 あきたすてらクリニック 2人	屋内外消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 (5月、11月)
自主点検	年 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令和5年度同様、令和6年度も実施整備する

令和5年度 居宅介護支援センター総括

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症等の流行期であっても、流れを止めず、人権や生活習慣を守りながら、感染症と共存していくために、どのような仕組みを構築すべきかを求められた年度であったと考えている。令和4年度までは、サービス休止が当たり前であったが、殆どのサービス事業所が休止せずに、感染者がいる場合であってもサービスを提供した年度であり、そういった環境での、介護支援専門員としての役割は、感染症への正しい知識の啓蒙と、セルフケア能力を高める支援だったと感じている。

事業運営においては、主任介護支援専門員が4名となったため、介護支援専門員との業務の差別化を図り、具体的な役割を担い、かつ事業所全体を牽引していく体制のもと、介護支援専門員が機動力となり、以前よりも一体的な事業運営ができ、お互いが補完しあえた年度だと感じている。

管理者においては、法人及び事業所内の職員の協力のもと、秋田県介護支援専門員協会の理事としての業務や日本介護支援専門員協会が発行した介護支援専門員テキストの執筆にあたることもできた。

令和5年度 訪問介護センター 総括

生活援助の伸び悩みはあったが、身体介護の新規利用者も増え、身体介護の増加があった。

職員の異動もなく業務はスムーズに行えたが、細かな情報伝達できていない部分もあったので、今後は情報共有に努めていきたい。

感染症に関する研修を行いながら、感染予防に努めることができたが今後も各研修を行いながら防止に努めていきたい。

次年度は、沢山の研修に参加し、知識を身につけ利用者様に安心して在宅生活が送れるよう支援していきたい。

令和5年度 訪問リハビリセンター 総括

- 1, 訪問リハビリテーション指示医（事業所医師）による診察は、利用者様に“りんごの里 福寿園”にご来園頂いて受けて頂く形で継続しています。

施設内におけるコロナウイルス罹患者増加によって、指示医の診察休止のリスクは相変わらずありますが、今年度は訪問リハビリのサービス提供中止に至ることはありませんでした。訪問リハビリ利用者の罹患の事例もありましたが、担当介護支援専門員やご家族・ご本人からの早急な連絡もあり、スタッフを介して他利用者様に感染させることもなく対応できています。

タブレットによるリモート診察の運用については課題もあり、今年度は実施していません。今後も継続して検討が必要です。

- 2, 訪問リハビリテーション指示医（事業所医師）の指示に基づいての訓練提供、主治医・指示医との情報交換については書面を介して行っています。訪問リハビリテーション指示医診察時にリハビリテーション会議を行うこととし、少しずつ取り組んでいます。

- 3, “健康アップ教室”は火・水・木の3日／週で実施。

教室の活動場所については施設入所・通所者の訓練場所と共用であるため、スケジュール調整や利用者対応には相変わらず苦慮しています。

令和5年度 りんごの里くらしのサポートセンター総括

「住まい・生活支援事業」

①見守り・安否確認について

・現在1名の方が利用中。生活支援の一つとして令和6年度も継続していく。

②住まいについて

・問合せ等の件数はありませんでした。

「地域支援活動」

住民主体による活動の「つどいの和 りんりん」への送迎や諸準備など後方支援を継続している。

①つどいの和りんりんへの令和5年度の参加者延べ数は201人でした。

②その他の地域へ出向いての活動は、実施実績はありません。

事業別利用者状況表（令和5年度）

りんごの里 福寿園	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
施設サービス	2,506	2,602	2,578	2,652	2,553	2,555	2,557	2,484	2,588	2,596	2,489	2,643	30,803	2,567	92.5
短期入所	334	303	293	224	271	227	267	215	188	198	201	228	2,949	246	
介護予防短期入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	2,840	2,905	2,871	2,876	2,824	2,782	2,824	2,699	2,776	2,794	2,690	2,871	33,752	2,813	
通所リハビリテーション	805	833	796	805	826	777	781	733	723	667	629	619	8,994	750	32.1
予防介護通所リハビリテーション	66	83	83	86	83	80	92	78	82	88	88	85	994	83	
合計	871	916	879	891	909	857	873	811	805	755	717	704	9,988	832	

グループホーム ひだまりの家	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	270	279	270	279	279	253	262	270	279	279	261	279	3,260	272	8.9

グループホーム ひなたの家	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	261	272	3,287	274	9.0

ショートステイ ラ・ポア・ラクテ	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	1,869	1,885	1,862	1,920	1,891	1,852	1,909	1,864	1,893	1,881	1,798	1,928	22,552	1,879	61.8

りんごの里 福寿園 訪問介護センター	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
身体介護	140	214	156	172	181	168	153	174	156	157	171	197	2,039	170
身体生活	72	47	35	46	55	48	56	29	31	30	32	30	511	43
生活援助	77	66	57	54	53	57	60	74	61	65	74	80	778	65
総合事業	31	35	34	35	33	34	30	28	39	40	42	46	427	36
合計	320	362	282	307	322	307	299	305	287	292	319	353	3,755	313

りんごの里 福寿園 訪問リハビリセンター	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
	112	94	105	86	78	88	89	76	105	102	104	104	1,143	95

※介護予防分含む

りんごの里 福寿園 居宅介護支援センター	R5.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6.1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）
	166	170	164	159	168	165	164	159	162	158	151	149	1,935	161

事業実績報告の付属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

特にありません。

2. その他の重要な事項

特にありません。